



2011年9月期 決算説明会資料

2011年11月21日
代表取締役社長 今井博文

富士製薬工業株式会社
(4554/東証2部)

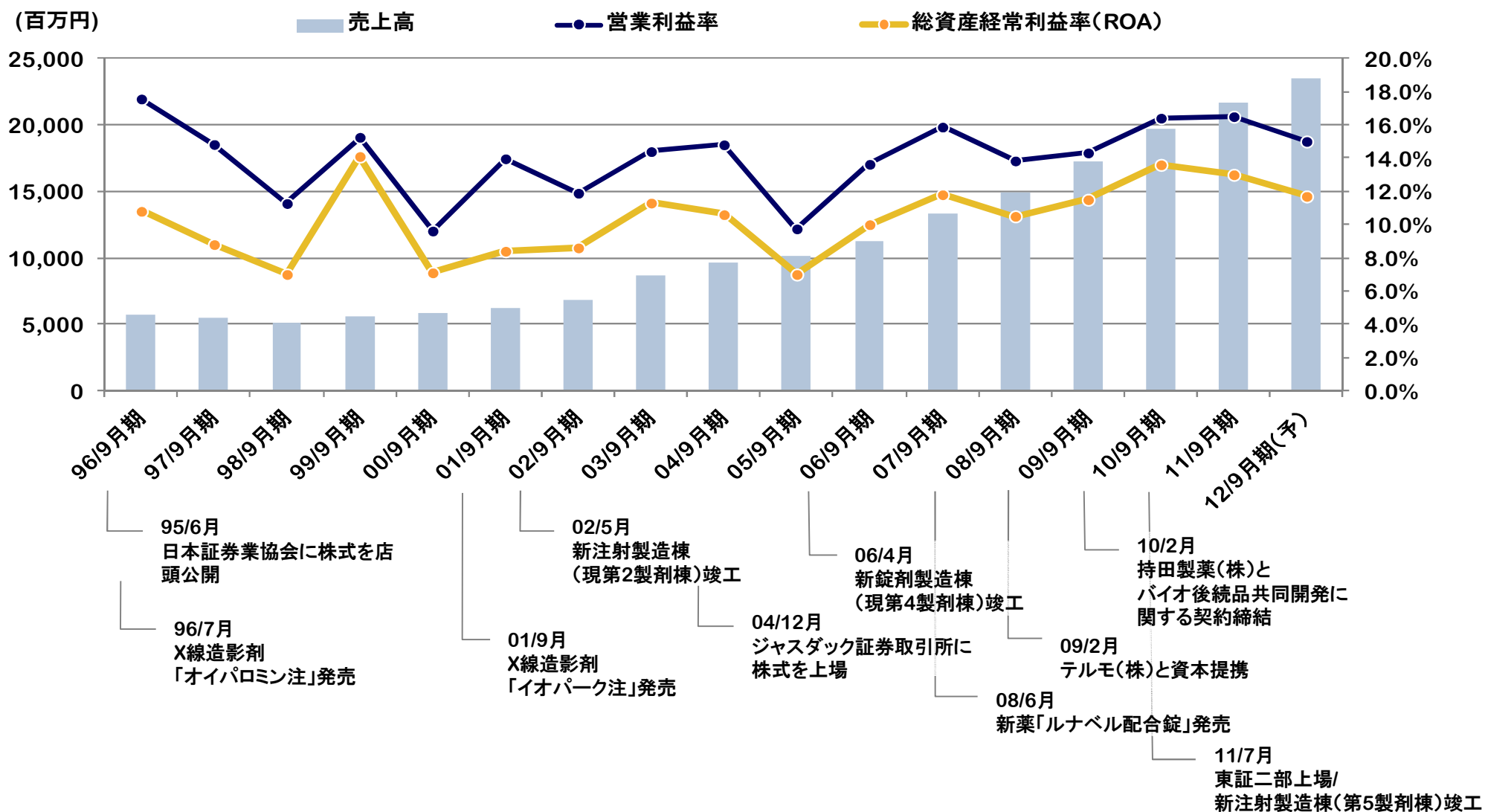
 **FujiPharma**

目次

- 当社の事業概要/業績トレンド P3
- 主要事業ドメイン P4～8
- 2011年9月期 決算概要 P9～16
- 2012年9月期 業績予想 中期経営計画の進捗 P17～23

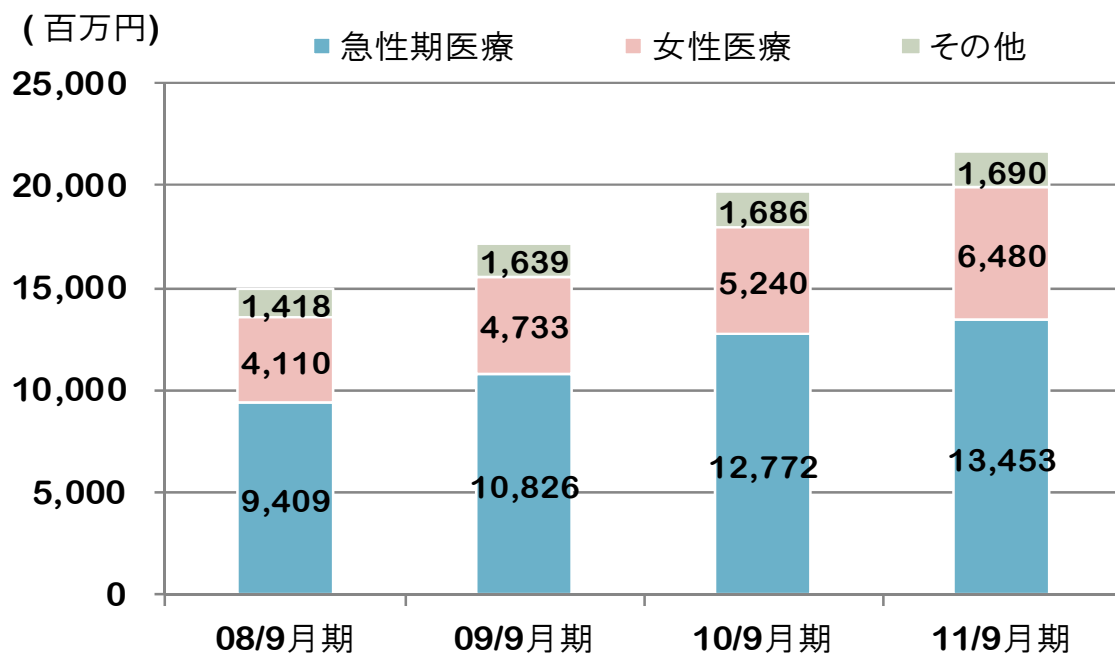
当社の事業概要/業績トレンド

- 「医薬品を通じて、人々の健やか生活に貢献する」ことを経営理念とした事業活動の結果、その貢献範囲が年々拡大

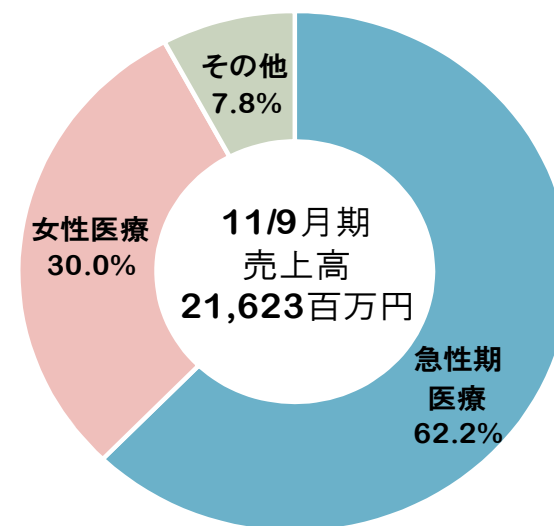


主要事業ドメイン： 医療領域別

- 画像診断薬、副腎ホルモン剤などの注射剤を軸に急性期医療に貢献
- 女性医療に特化し、日常診療に必要な全ての治療薬・診断薬をカバー



医療領域別売上高構成比



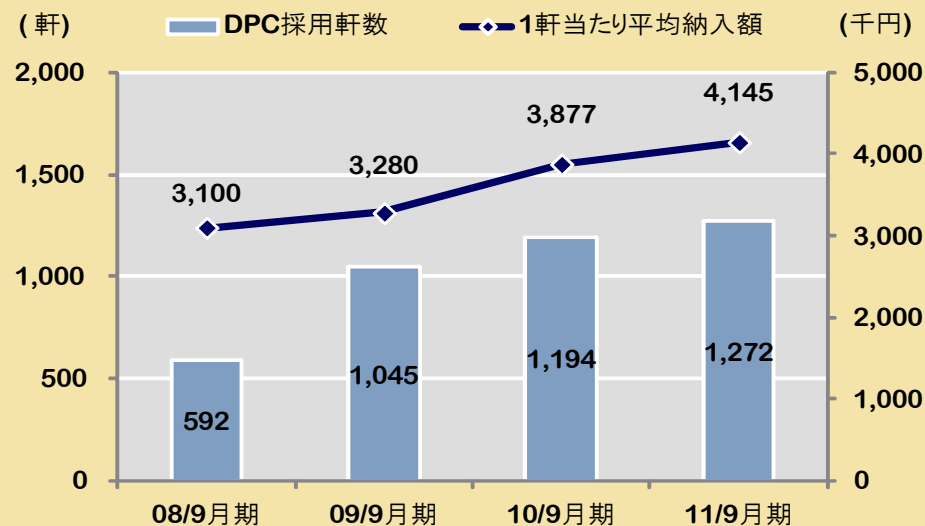
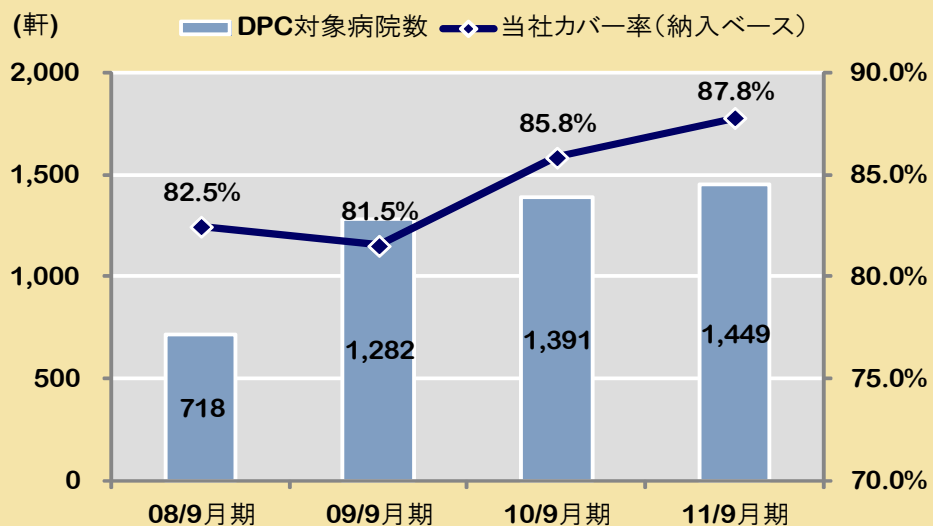
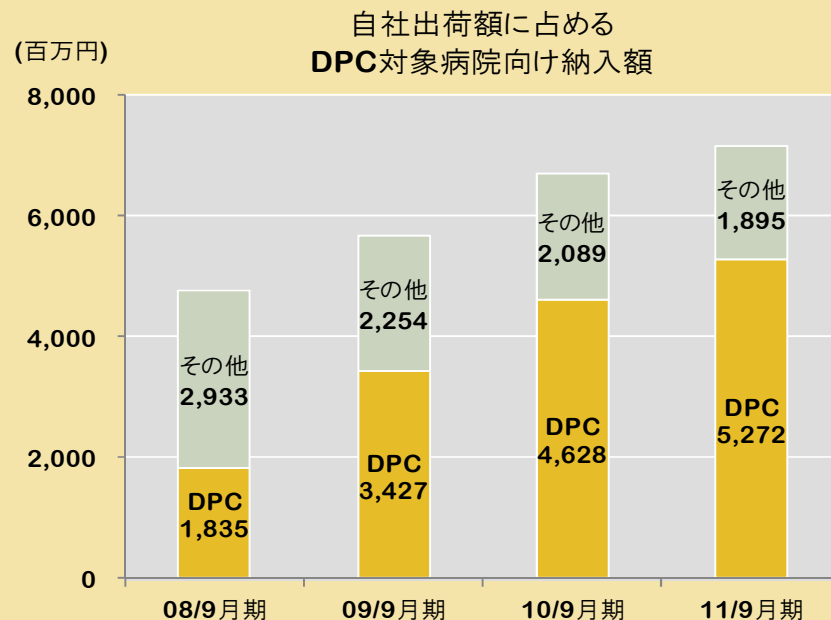
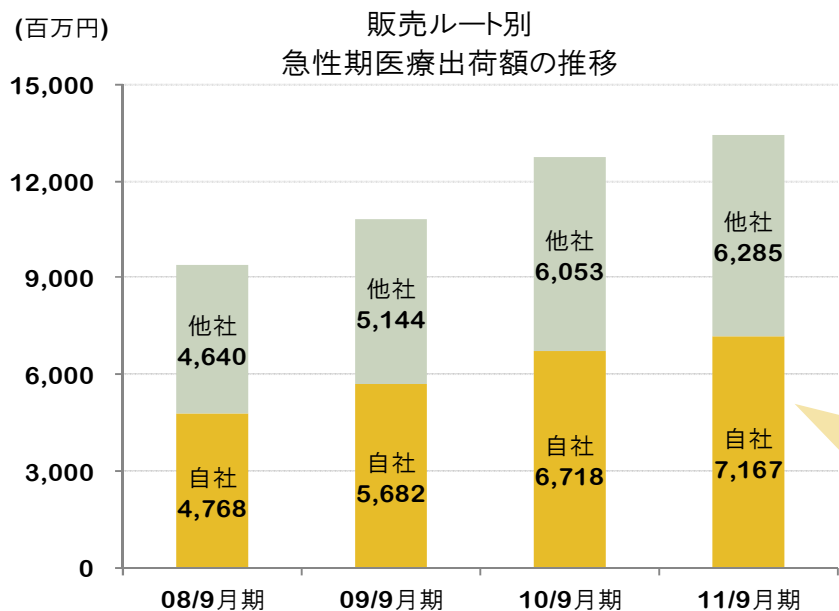
急性期医療： 特徴と成長戦略

- 画像診断薬(がんの診断など)と副腎ホルモン剤(抗がん剤との併用など)が主力
 - 強みの高活性医薬品製造技術を活かし、抗がん剤領域に参入
 - バイオ後続品(G-CSF製剤)の共同開発
 - DDS(ドラッグデリバリーシステム)技術による抗がん剤・抗真菌剤などの開発
 - テルモ(株)との協業によるD&D(ドラッグ&デバイス)の製剤開発
- DPC*対象病院に特化、マーケティング活動の質×量の引き上げ
 - 新たな戦略疾患領域:がん・血液領域の専門組織の立ち上げ
 - ドクターおよび技師向け放射線領域情報誌「Emergency Imaging」及び麻酔科領域の海外文献集「ANESTHESIA ANTENNA」の発刊

DPC(Diagnosis Procedure Combination) :

診断群分類包括評価といい、医療費の定額支払い制度に使われる評価方法。2003年4月より、全国82の特定機能病院などにおいて開始された。2011年4月には、対象病院数は1,449に拡大し、一般病床約91万床のおよそ半分の病床数に至っている。医療費の定額支払制度は、患者が何の病気であったかの診断群分類により診療報酬が決まる制度で、治療にどれだけの費用がかかったかで報酬が決まり、これまでの出来高払い制度とは対照的な制度。患者の利益としては無駄な医療の削減が、医療者の利益としては、従来採算割れの傾向が強かった急性期病院の経営安定、医療費情報の標準化による医療の質の担保などが期待されている。結果、医療のサービス化を通じた医療費抑制の実現が行政の最終ゴールとなっている。

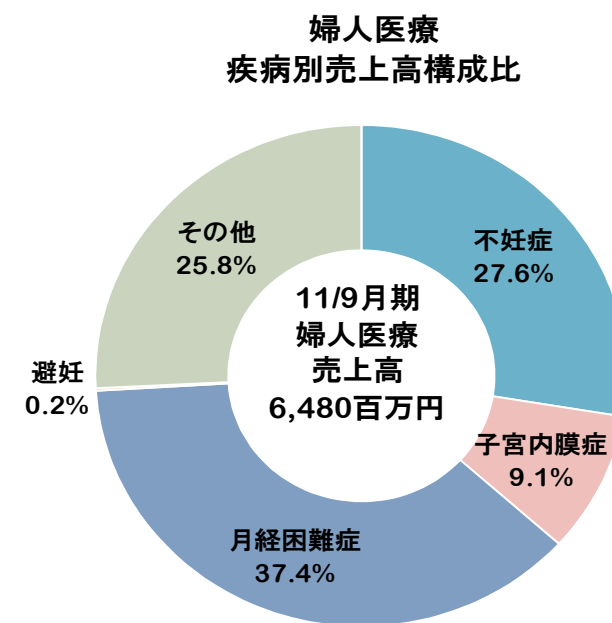
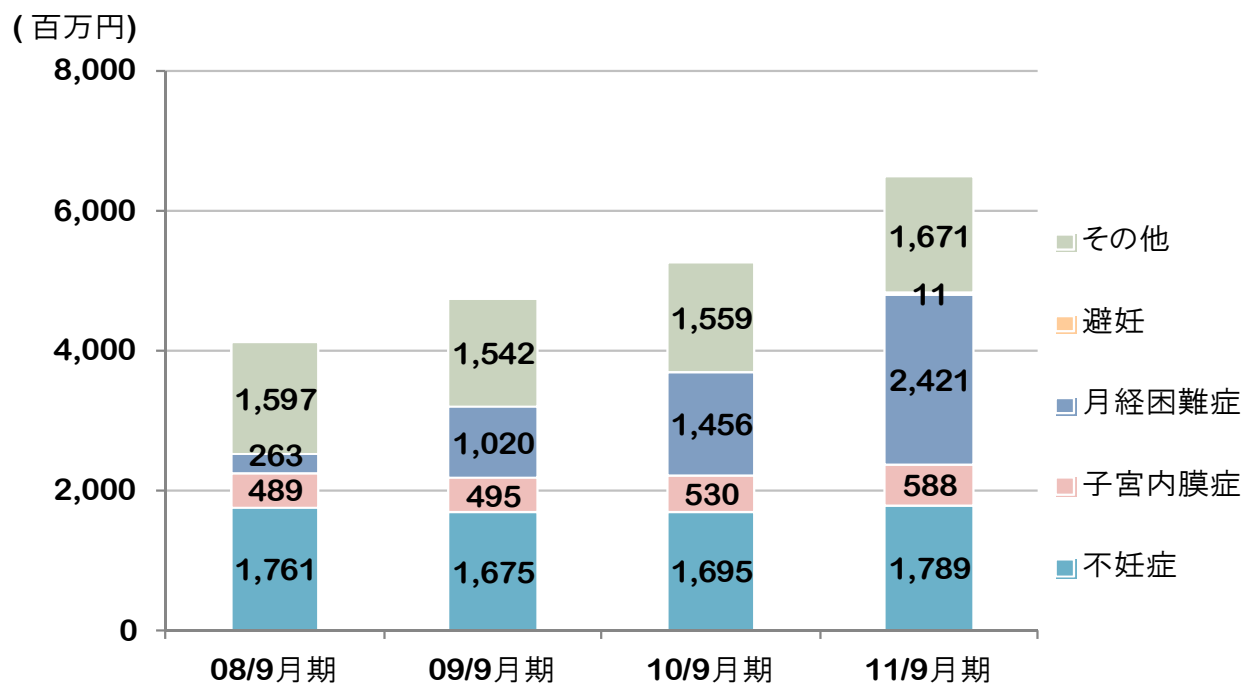
急性期医療： DPC対象病院に関する当社事業の推移



女性医療：特徴と成長戦略

● 女性ホルモン剤が主力

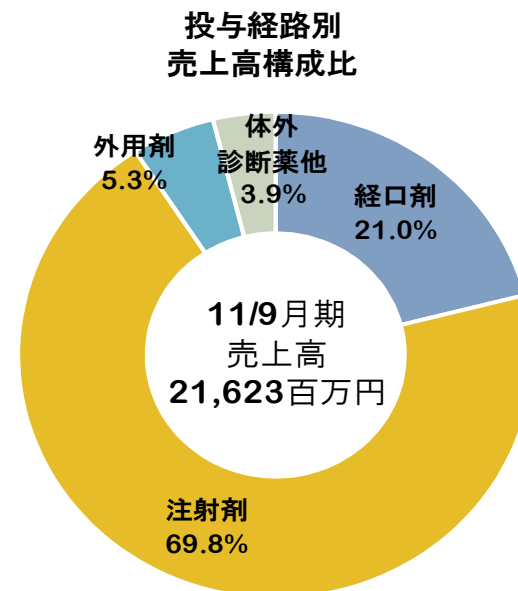
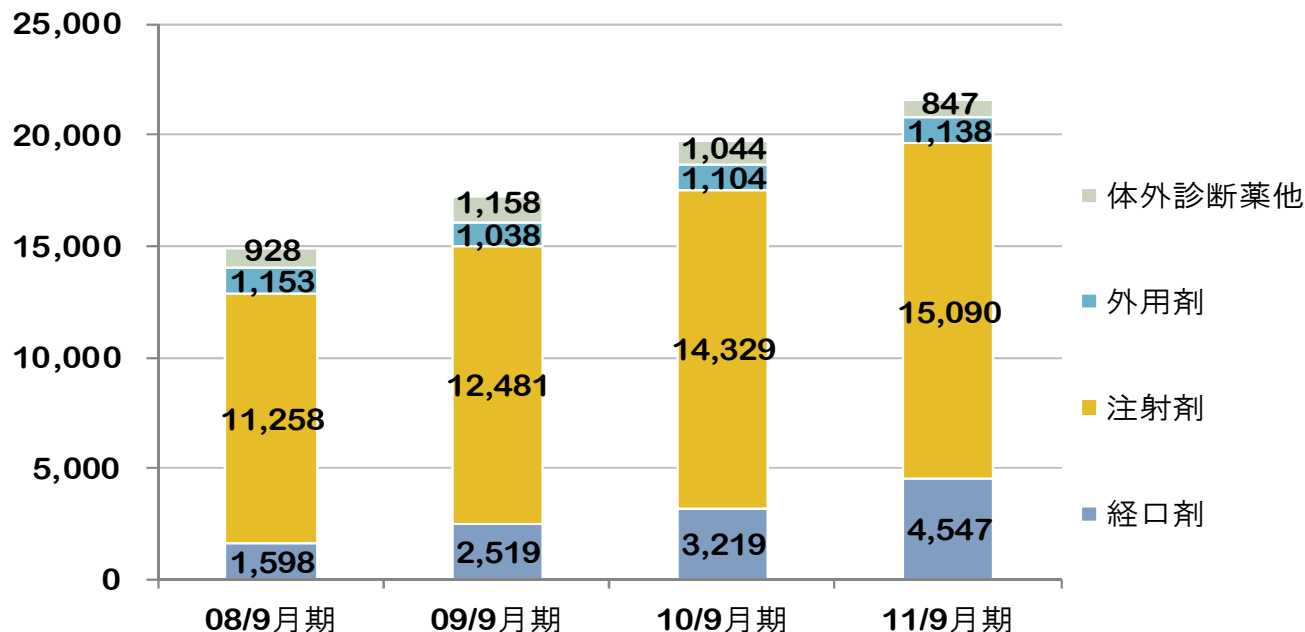
- 従来の豊富な品揃えに加え、月経困難症治療の新薬や国内初の経口避妊剤ジェネリック薬などのラインアップの強化
- 医療上の必要性の高い未承認薬の女性ホルモン剤(プロゲステロン製剤)の開発に着手
- 産婦人科領域の強固な顧客基盤を構築、各種学会、研究会などを強力にサポート
- 不妊治療情報誌「FUJI Infertility & Menopause News」の継続発行



投与経路別：特徴と成長戦略

- 主力は無菌性保証が必要な注射剤
 - 取り扱いが難しいホルモン剤などの高活性医薬品の製造技術に強み
 - アンプル・バイアル・シリンジおよび水性・非水性・凍結乾燥製剤などの多品種の製造が可能
 - 需要増加への対応およびバイオ医薬品、抗がん剤などの新製品供給のための第5製剤棟を新設
- 高活性医薬品の経口剤製造専用工場を保有
 - 経口避妊剤の国内で唯一の製造ラインを構築

(百万円)



2011年9月期 決算概要



2011年9月期 決算サマリ

- 売上高、利益とも過去最高を更新
- 診断用薬及びホルモン剤の売上高が順調に拡大
- 第5製剤棟が予定とおり竣工し、一部稼働開始
- バイオ後続品(G-CSF製剤)の開発は予定とおり進捗
- 東日本大震災の直接的影響は軽微

(百万円)	10/9月期			11/9月期			前期比		【ご参考】	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率	11/9月期 当初予想	当初予想比 増減額
売上高	9,567	10,131	19,698	10,745	10,878	21,623	1,925	9.8%	22,457	△ 834
売上総利益	4,441	4,637	9,079	5,001	5,298	10,299	1,220	13.4%	-	-
粗利益率	46.4%	45.8%	46.1%	46.5%	48.7%	47.6%			-	-
販売管理費	2,830	3,015	5,846	3,316	3,417	6,734	888	15.2%	-	-
販売管理費率	29.6%	29.8%	29.7%	30.9%	31.4%	31.1%			-	-
営業利益	1,610	1,622	3,232	1,684	1,881	3,565	333	10.3%	3,476	89
営業利益率	16.8%	16.0%	16.4%	15.7%	17.3%	16.5%			15.5%	
経常利益	1,614	1,628	3,243	1,686	1,858	3,545	302	9.3%	3,471	74
経常利益率	16.9%	16.1%	16.5%	15.7%	17.1%	16.4%			15.5%	
当期純利益	971	972	1,944	1,039	1,164	2,204	260	13.4%	2,141	63
当期純利益率	10.1%	9.6%	9.9%	9.7%	10.7%	10.2%			9.5%	
ROE			11.4%			11.3%				
1株当たり当期純利益			151.05			167.63	16.58		162.78	4.85
設備投資額	887	872	1,759	1,682	1,731	3,414	1,655	94.1%		
減価償却費	492	534	1,026	454	567	1,021	△ 5	-0.5%		
研究開発費	500	613	1,114	768	747	1,516	402	36.1%		
研究開発費率	5.2%	6.1%	5.7%	7.1%	6.9%	7.0%				

2011年9月期 営業利益の主要増減要因

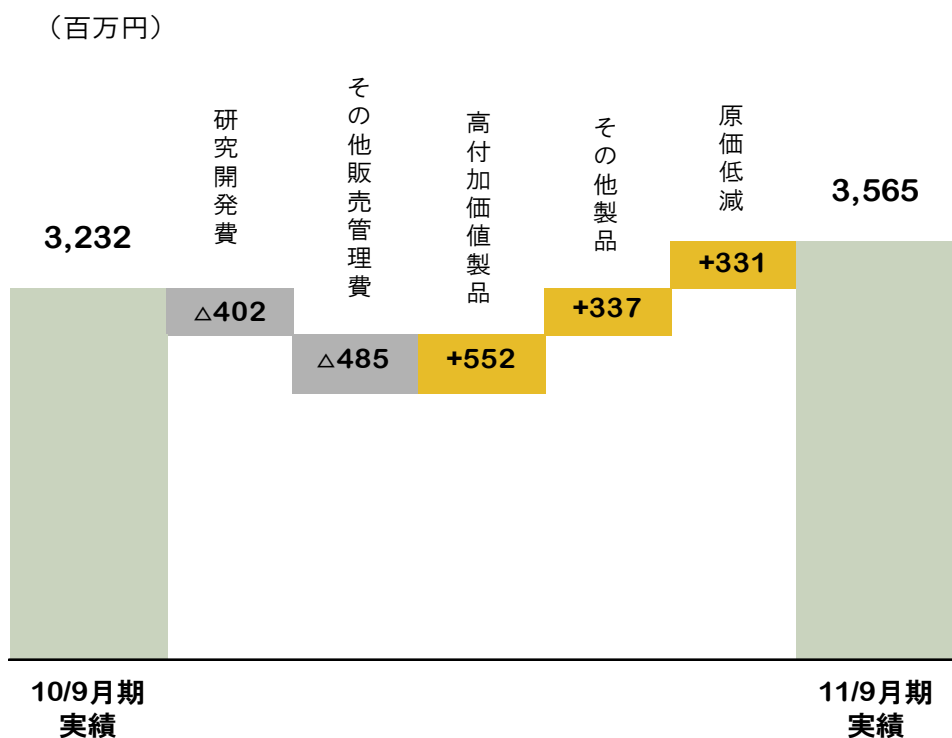
● 前期比増減のポイント

- 研究開発費の増加
- 高付加価値製品売上高の増加
- 増産効果などによる原価低減

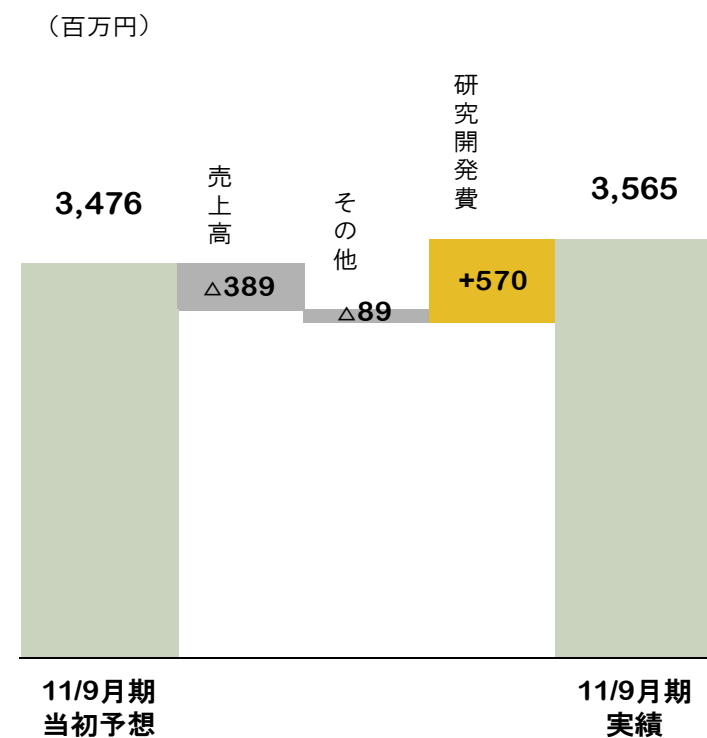
● 当初予想比増減のポイント

- 研究開発費の未消化
- 売上計画の未達

営業利益 前期比



営業利益 当初予想比



医療領域別・投与経路別売上高の推移

- DPC対象病院向け診断用薬、ホルモン剤の売上高が堅調に推移
- 適応拡大に伴い「ルナベル配合錠」の売上高も引続き伸長

医療領域別 (百万円)	薬効分類	08/9月期	09/9月期	10/9月期	11/9月期	前期比	
		実績	実績	実績	実績	増減額	増減率
急性期医療	診断用薬(造影剤など)、ホルモン剤など	9,409	10,826	12,772	13,453	681	5.3%
女性医療	ホルモン剤・体外診断薬など	4,110	4,733	5,240	6,480	1,240	23.7%
その他	循環器官用薬・体外診断薬など	1,418	1,639	1,686	1,690	4	0.2%
	合計	14,937	17,198	19,698	21,623	1,925	9.8%

投与経路別 (百万円)	薬効分類	08/9月期	09/9月期	10/9月期	11/9月期	前期比	
		実績	実績	実績	実績	増減額	増減率
注射剤	診断用薬(造影剤など)	5,804	6,984	8,494	8,978	484	5.7%
	循環器官用薬	1,229	1,149	1,137	1,049	△88	-7.7%
	ホルモン剤	2,883	2,960	3,162	3,397	235	7.4%
	抗生物質・化学療法剤	247	246	282	329	47	16.7%
	その他(受託含む)	1,095	1,142	1,254	1,337	83	6.6%
	小計		11,258	12,481	14,329	15,090	761
経口剤	循環器官用薬	3	13	19	19	0	0.0%
	ホルモン剤	605	1,356	1,708	2,756	1,048	61.4%
	泌尿・生殖器官系用薬	93	90	91	101	10	11.0%
	その他(受託含む)	897	1,061	1,401	1,671	270	19.3%
	小計		1,598	2,520	3,219	4,547	1,328
外用剤	ホルモン剤	485	498	534	551	17	3.2%
	泌尿・生殖器官系用薬	222	209	221	221	0	0.0%
	外皮用薬	329	288	297	314	17	5.7%
	その他(受託含む)	117	43	53	53	0	0.0%
	小計		1,153	1,038	1,105	1,139	34
体外診断薬他	体外診断薬(インフルエンザなど)	874	1,124	999	810	△189	-18.9%
	その他	54	35	46	37	△9	-19.6%
	小計		928	1,159	1,045	847	△198
	合計	14,937	17,198	19,698	21,623	1,925	9.8%

売上高上位品目の推移

● 急性期医療

製品名 (百万円)	薬効分類	08/9月期 実績	09/9月期 実績	10/9月期 実績	11/9月期 実績	前期比	
						増減額	増減率
オイパロミン注	診断用薬	4,477	5,351	6,552	6,876	324	4.9%
イオパーク注	診断用薬	940	1,124	1,388	1,557	169	12.2%
アリプロスト注	循環器官用薬	956	857	839	755	△ 84	-10.0%
注射用ソル・メルコート	ホルモン剤	375	463	557	614	57	10.2%
デキサート注射液	ホルモン剤	327	433	537	604	67	12.5%
上位5品目合計		7,085	8,229	9,874	10,408	534	5.4%

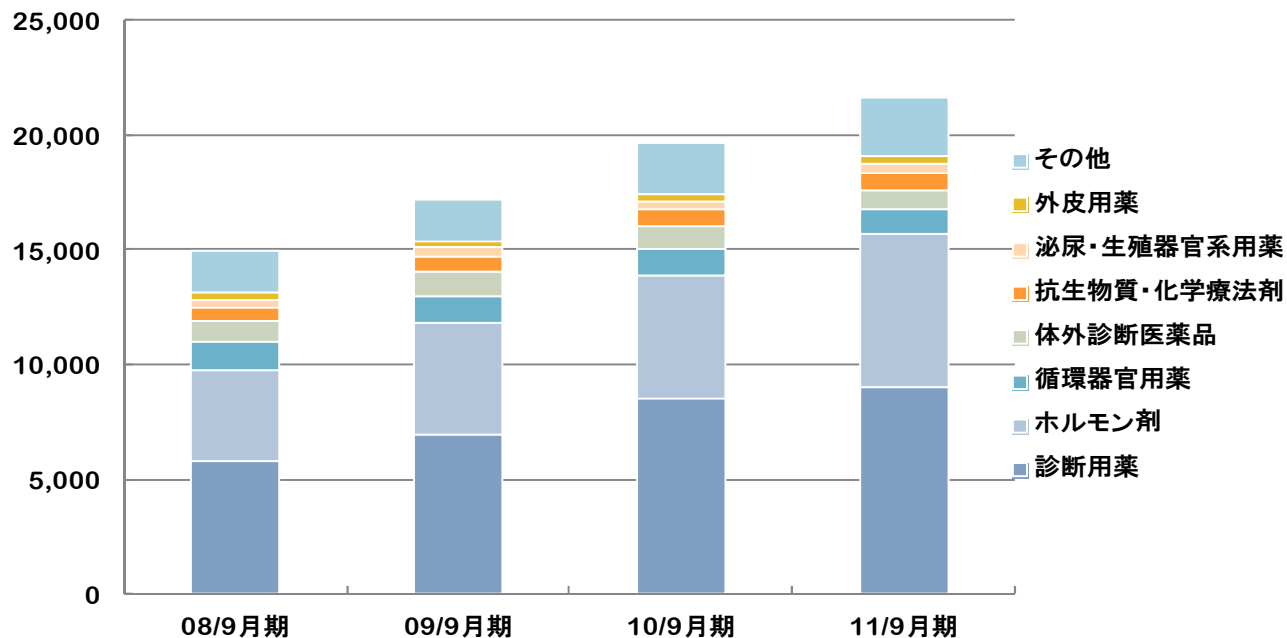
● 女性医療

製品名 (百万円)	適応症	08/9月期 実績	09/9月期 実績	10/9月期 実績	11/9月期 実績	前期比	
						増減額	増減率
ルナベル配合錠	月経困難症	203	962	1,345	2,271	926	68.8%
HMG筋注用	不妊症	988	919	921	935	14	1.5%
フォリルモンP注	不妊症	432	420	433	478	45	10.4%
ブセレキュア点鼻液	子宮内膜症	286	276	295	321	26	8.8%
ナファレリール点鼻液	子宮内膜症	183	201	218	225	7	3.2%
上位5品目合計		1,890	1,818	3,325	4,381	1,056	31.8%

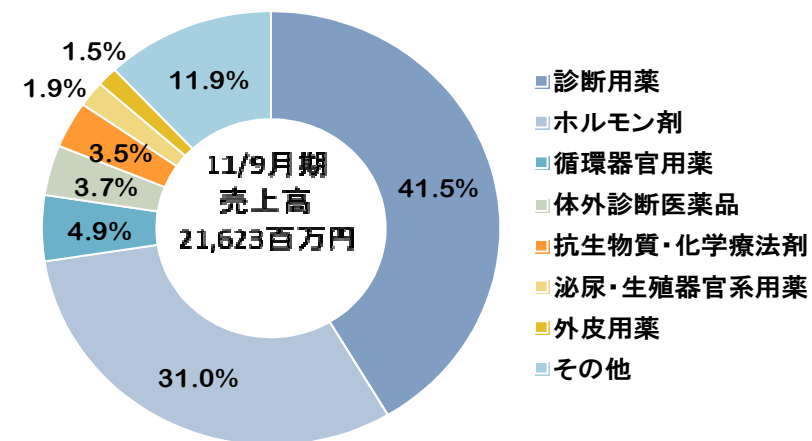
薬効別販売実績の推移

(百万円)	08/9月期	09/9月期	10/9月期	11/9月期	前期比	
					増減額	増減率
診断用薬	5,803	6,983	8,494	8,978	484	5.7%
ホルモン剤	3,973	4,815	5,403	6,704	1,301	24.1%
循環器官用薬	1,231	1,161	1,155	1,067	△ 88	-7.6%
体外診断医薬品	873	1,124	999	810	△ 189	-18.9%
抗生物質・化学療法剤	634	646	680	752	72	10.6%
泌尿・生殖器官系用薬	332	364	389	418	29	7.5%
外皮用薬	329	288	297	314	17	5.7%
その他	1,758	1,814	2,277	2,577	300	13.2%
合計	14,937	17,198	19,698	21,623	1,925	9.8%

(百万円) 薬効別売上高推移



薬効別売上高構成比



2011年9月期 貸借対照表概要

(百万円)	10/9月期 期末	11/9月期 期末	前期末比	
			増減額	増減率
資産の部				
流動資産	16,588	20,537	3,949	23.8%
固定資産	8,135	9,220	1,085	13.3%
有形固定資産	5,901	7,581	1,680	28.5%
無形固定資産	1,141	1,027	△ 114	-10.0%
投資その他の資産	1,092	610	△ 482	-44.1%
資産合計	24,723	29,757	5,034	20.4%
負債の部				
流動負債	6,058	7,588	1,530	25.3%
固定負債	832	904	72	8.7%
負債合計	6,890	8,492	1,602	23.3%
純資産の部				
株主資本	17,836	21,264	3,428	19.2%
資本金	1,616	2,447	831	51.4%
資本剰余金	2,841	3,672	831	29.3%
利益剰余金	13,377	15,145	1,768	13.2%
自己株式	△ 0	△ 0	0	-
評価・換算差額等	△ 3	0	3	-
純資産合計	17,833	21,264	3,431	19.2%
負債純資産合計	24,723	29,757	5,034	20.4%

- 利益増加および増資による現金及び預金の増加 21億円
- 売上増加に伴う売掛金増加 6億円
- リースバックなどによる未収入金の増加 6億円

第5製剤棟など固定資産の取得

第5製剤棟建設に伴う銀行借入 13億円

公募増資及び第三者割当増資による増加

2011年9月期 キャッシュ・フロー計算書概要

(百万円)	10/9月期	11/9月期	前期比	
	通期	通期	増減額	増減率
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,168	1,954	△ 214	-9.9%
(主な内訳)				
税引前当期純利益	3,156	3,496	340	10.8%
減価償却費	1,026	1,021	△ 5	-0.5%
売上債権の増減額(△は増加)	△ 158	△ 599	△ 441	-
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 946	△ 380	566	-
未収入金の増減額(△は増加)	△ 75	△ 661	△ 586	-
仕入債務の増減額(△は減少)	△ 213	94	307	-
法人税等の支払額	△ 1,208	△ 1,325	△ 117	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,404	△ 2,288	△ 884	63.0%
(主な内訳)				
有形固定資産の取得による支出	△ 1,482	△ 2,499	△ 1,017	-
無形固定資産の取得による支出	△ 218	△ 203	15	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 334	2,497	2,831	-847.6%
(主な内訳)				
長期借入れによる収入	-	1,300	1,300	-
株式の発行による収入	-	1,646	1,646	-
配当金の支払額	△ 334	△ 437	△ 103	-
現金及び現金同等物の期首残高	2,668	3,097	429	16.1%
現金及び現金同等物の期末残高	3,097	5,260	2,163	69.8%
フリー・キャッシュ・フロー	764	△ 334	△ 1,098	-

固定資産のリースバックに係る
未収入金の増加

第5製剤棟の建設に係る支出

第5製剤棟建設に係る借入

公募増資及び第三者割当
増資に係る収入

2012年9月期 業績予想 中期経営計画の進捗



2012年9月期 業績予想ハイライト

- 重点医療領域で売上17億円のアップ
- 新たな経口避妊剤を含む新製品10品目を上市
- 2012年4月の薬価改定の影響を約8%で想定
- 第5製剤棟の稼働により、減価償却費及び設備リース費が増加
- 退職金積み立て不足分を第1四半期に計上

(百万円)	11/9月期(実績)			12/9月期(予想)			前期比	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	10,745	10,878	21,623	10,757	12,729	23,487	1,864	8.6%
営業利益	1,684	1,881	3,565	1,408	2,116	3,524	△ 41	-1.2%
営業利益率	15.7%	17.3%	16.5%	13.1%	16.6%	15.0%	-	-
経常利益	1,686	1,858	3,545	1,408	2,120	3,528	△ 17	-0.5%
経常利益率	15.7%	17.1%	16.4%	13.1%	16.7%	15.0%	-	-
当期純利益	1,039	1,164	2,204	680	1,305	1,986	△ 218	-9.9%
当期純利益率	9.7%	10.7%	10.2%	6.3%	10.3%	8.5%	-	-
設備投資額	1,682	1,731	3,414	956	2,342	3,298	△ 116	-3.4%
減価償却費	454	567	1,021	617	686	1,304	283	27.7%
設備リース費	151	127	278	211	211	422	144	51.8%
研究開発費	768	747	1,516	907	761	1,668	152	10.0%
研究開発費率	7.1%	6.9%	7.0%	8.4%	6.0%	7.1%	-	-

医療領域、投与経路別売上高予想

医療領域別 (百万円)	薬効分類	11/9月期	12/9月期	前期比	
		実績	予想	増減額	増減率
急性期医療	診断用薬(造影剤など)・ホルモン剤など	13,453	14,354	900	6.7%
女性医療	ホルモン剤・体外診断薬など	6,480	7,293	813	12.5%
その他	循環器官用薬・体外診断薬など	1,690	1,840	149	8.9%

投与経路別 (百万円)	薬効分類	11/9月期	12/9月期	前期比	
		実績	予想	増減額	増減率
注射剤	診断用薬(造影剤など)・ホルモン剤など	15,090	16,085	994	6.6%
経口剤	ホルモン剤・循環器官用薬など	4,547	5,453	906	19.9%
外用剤	ホルモン剤・泌尿生殖器官系用薬など	1,139	1,109	△ 29	-2.6%
体外診断薬他		847	840	△ 7	-0.8%

高活性医薬品注射剤工場(第5製剤棟)第Ⅱ期工事に着手

- 第Ⅰ期工事が完了し、多品種のプレフィルドシリンジ製剤の製造ラインを構築
 - 第Ⅰ期工事(投資額:約40億円) 2011年7月 第5製剤棟竣工
 - プレフィルドシリンジ製剤製造能力2.5倍へ引上げ
 - 1mlの小容量から150mlの大容量までの様々な規格へ対応
 - 高度な無菌性保証体制の構築、無菌操作用アイソレーター設備の導入
 - 製造ランニングコストの削減、人的負荷、環境負荷の低減

- 注射剤メーカーとして更なる高度化、差別化、最大化を目指す
 - 第Ⅱ期工事(投資額:約32億円)
2012年3月着工、2013年4月完成予定
 - 世界初の高活性&無菌製剤の多品目対応製造設備を導入し、
抗がん剤の水溶性剤、凍結乾燥製剤の生産始動



中期経営計画「GOOD TO GREAT」の概要

- 重要課題

設立50年を睨んだ既存のコア事業価値の引上げと次の時代に向けた新規事業機会・戦略の具体化

- 中計テーマ

『GOOD TO GREAT』

独自の企業価値の持続的向上に努めること

当社「らしさ」を追求すること

- 目指す方向 ⇒ 今後10年間の利益率の引上げ

- 注射剤を軸に急性期医療の新たな競争優位を築く
 - ・ がんの診断(主力の造影剤)からがんの治療への展開を強化する
 - ・ 「Gxプラス」(バイオ、DDS、D&D)事業を立ち上げる
- 女性医療のリーディング・カンパニーを確立する
 - ・ 産婦人科ホルモン療法のを全てをサポートする
 - ・ ジェネリックとブランドのシナジーモデルを創る
- 研究開発を真ん中にした事業運営体制を構築する
 - ・ 開発を中心にした事業のラインバランスを再設計する
 - ・ 富山市に『研究開発センター』を立ち上げる

重点施策の実施状況

● 急性期医療

- DPC対象病院(自社販売分のみ) 11/9月期納入実績 1,272病院/1,449病院、売上高実績 5,272百万円(前期比13.9%増)
- 遺伝子組み換えヒト顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)製剤の臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験を実施
- 高度な無菌性を保証するバイオ医薬品などの新製造ラインを構築
- インドB社より抗真菌剤リポソーム製剤の国内開発・販売権を取得

● 女性医療

- 新薬ルナベル配合錠 11/9月期売上高実績 2,271百万円(前期比68.8%増)
- 経口避妊剤の国内初のジェネリック「ファボワール錠21／ファボワール錠28」を2011年8月に上市
- 医療上の必要性の高い未承認薬のプロゲステロン経腔剤・経口剤の開発に着手
- 国内外企業との包括的アライアンスの具体化を継続検討中

中期経営計画の見直し

- 積極的な研究開発投資、設備投資により、新たな成長路線への転換
- 2015年売上高350億円、経常利益70億円、ROE15%を計画

(百万円)	11/9月期 実績	12/9月期 予想	13/9月期 新計画	14/9月期 新計画	15/9月期 新計画	14/9月期 従来計画
売上高	21,623	23,487	27,000	30,900	35,000	35,000
急性期医療関連	13,453	14,354	17,000	20,000	23,300	24,000
女性医療関連	6,480	7,293	7,900	8,300	8,700	9,000
その他	1,689	1,840	2,100	2,600	3,000	2,000
営業利益	3,565	3,524	4,070	5,070	7,000	7,000
営業利益率	16.5%	15.0%	15.1%	16.4%	20.0%	20.0%
経常利益	3,545	3,528	4,070	5,070	7,000	7,000
当期純利益	2,204	1,986	2,500	3,100	4,300	4,300
ROA(総資産経常利益率)	13.0%	11.7%	12.6%	14.3%	>15.0%	>15.0%
ROE	11.3%	9.0%	10.6%	12.2%	>15.0%	
1株当たり純利益	167.63	140.65	178.10	221.83	310.30	
設備投資額	3,414	3,298	1,651	720		
10/9-14/9月期累計	5,173	8,471	10,122	10,842		9,600
減価償却費	1,021	1,304	1,413	1,372	1,359	1,309
設備リース費	278	422	588	677	625	882
研究開発費	1,516	1,668	2,160	2,700	3,000	3,000
研究開発費率	7.0%	7.1%	8.0%	8.7%	8.6%	8.6%

お問い合わせ先

富士製薬工業株式会社
管理部 経営企画課

小林 伸吉
入山 真由美

Phone 03-3556-3344
Fax 03-3556-4455
E-Mail fsk_ir@fujipharma.jp
URL <http://www.fujipharma.jp/>

本資料に記載の業績予想及び将来の予想等に関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき、弊社にて判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。
また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。